



GLOBAL DAIRY PLATFORM

気候変動に関する全世界の 酪農乳業セクターの大志 (野心)を掲げる

ドナルド・ムーア
グローバル・デーリー・プラットフォーム
専務理事

Discover the Good



グローバル・デリー・プラットフォーム(GDP)とは？

営利会員

アーラ・フーズ共同会社
カリフォルニア・デリーズ
中国蒙牛乳業
コバンク
デリー・ファーマーズ・オブ・アメリカ
デリー・パートナーズ・アメリカズ
ダノン
フォンテラ協同組合
グランビア・ニュートリショナルズ
ヒルマー・チーズ・カンパニー
ランド・オー・レイクス社

レプリノ
LIC(家畜改良株式会社)
メリーランド州とバージニア州の協同組合
雪印メグミルク株式会社
株式会社 明治
森永乳業株式会社
マレー・ゴールバン/MGニュートリショナルズ
NIZO・フード・リサーチ
オーヌア
パームハウス・デリーズ(ケニア)

プレーリー・ファームズ
ロイヤルDSM株式会社
ロイヤル・フリースランド・カンピーナ
サポート社
セント・オールバンズ協同組合
スイス・バレー・ファームズ
テトラ・ラバルグループ
TINEグループ
ユナイテッド・デリーメン・オブ・アリゾナ
URUS
ボラック

非営利会員

AARDO (ナイジェリア)
全諸島酪農協会 (スリランカ)
米国乳製品協会
オーストラリア乳製品連盟
ベルギー酪農連盟
ブリティッシュ・チーズ・ボード/デリーUK
カリフォルニア酪農研究財団
中国食品輸出入商業会議所
コンソルシオ・レチェロ、ラ・カデナ・ラクテア・デ・チレ
チェコ・モラヴィア酪農協会
デリー・オーストラリア
デリー・コネクト (ニューサウスウェールズ) 社
ニュージーランド乳業協会
北アイルランド酪農協会
カリフォルニア酪農協会
デリー・ファーマーズ・オブ・カナダ

デリー・ファーマーズ・オブ・オンタリオ
オーストラリア乳業協会
デリー・イノベーション・オーストラリア
デリー・マネジメント株式会社
牛乳乳製品栄養協議会
カナダ乳業協会
酪農乳業研究所
デリーUK
デリー・コ
デンマーク農業食料省
デンマーク乳業協会
オランダ乳業協会
東部・南部アフリカ酪農協会
エンブラパ・デリー・キャトル
欧州乳業協会
食品・乳製品応用研究センター

全国乳製品工業連合会
ガーディナー財団
アイスランド酪農協会
国際酪農連盟
国際乳食品協会
国際酪農比較ネットワーク
アイルランド協同組合組織協会
イスラエル乳業協会
日本乳業協会
J-Milk (日本酪農乳業協会)
韓国酪農委員会
韓国乳業協会
韓国酪農科学・技術協会
ラクテア・ブラジル
乳業協会
ミルク・マーケティング (ニューサウスウェールズ) 有限会社

ミルクPEP
牛乳生産者団体
ムー・ファーム・インディア
全米酪農協議会
国内酪農連盟 (ネパール)
全国牛乳生産者連盟
ノルウェー乳業協会
パンアメリカン酪農連盟
ポーランド乳業協会
南アフリカ乳業協会
スウェーデン酪農協会
スイス・ミルク・プロデューサーズ
デリー・カウンシル
英国ヨーグルト協議会
米国乳製品輸出協会

GDPのガバナンス体制

ハイン・シューマツハ
CEO
フリースランド・カンピーナ



ペダー・トゥボー
CEO
アーラ・フーズ



リック・スミス
代表取締役社長兼CEO
デリー・ファーマーズ・オブ・アメリカ
GDP会長



マルグレーテ・ヨンク
マン博士
R&D取締役
フリースランド・カンピーナ
GDP副会長



マイルス・ハレル
CEO
フォンテラ



ミンファン(ジェフリー)・
ルー
CEO兼専務取締役
中国蒙牛乳業



リノ・サプート・ジュニア
会長兼CEO
サプート



ピエール・クリスチアーノ・
ブラザーレ
会長
国際酪農連盟



ティム・レヴィニー
SVP, Dairy Foods GDI & Asia Pacific
Land O'Lakes



マイク・ダーキン
代表取締役社長兼CEO
レプリノ・フーズ



川村 和夫
社長
明治ホールディングス株式会社



ケルビン・ウィツカム
最高経営責任者
アフリカ、中東、ヨーロッパ、北アジア、
アメリカ
フォンテラ



小出 薫
株式会社明治



ジェイ・ウォルトボゲル
SVPストラテジー&インターナショナル
デリー・ファーマーズ・オブ・アメリカ



ハンヌ・ソンダーガード
最高マーケティング責任者
アーラ・フーズ



GDPの運営体制

役職員



ドナルド・ムーア
専務理事



ケビン・バーカム
コミュニケーション・
ディレクター



ミッチ・カンター博士
科学・技術
ディレクター



アマンダ・スルシャー
オフィス
マネージャー

部門リーダー



グレッグ・ミラ
ー博士
栄養安全保障



ブライアン・
リンゼイ
持続可能性



アーネスト・レイエス
酪農開発

GDPの目的

酪農乳業界全体の前競争的な活動を主導する：

- 酪農乳業・牛乳乳製品の利点を、世界中の人々に理解してもらえるように物語にする
- 国連機関との対話（意見交換）においてセクターを代表し、協力体制を構築
- 牛乳乳製品の栄養上の利点及びフードシステムにおける役割に関して研究を実施する
- 世界の酪農乳業セクターのサステナビリティ成績の測定・監視（DSF：デリー・サステナビリティ・フレームワーク）
- 酪農乳業セクターの社会経済的影響を測定及び報告するためのエビデンス収集とツールの構築

関与 - エビデンスの構築...



関与 - エビデンスを会員のために **翻訳**...



関与 - 信頼を深める...



気候変動に関する全世界の酪農乳業 セクターの大志(野心)を掲げる

”酪農乳業ネット・ゼロへの道筋”

組織間の協力：



GLOBAL DAIRY PLATFORM



ILRI
INTERNATIONAL
LIVESTOCK RESEARCH
INSTITUTE



世界の酪農乳業を取り巻く状況

酪農乳業セクター



関係者は
10億人



6億人が酪農場
で働く



さらに4億人が酪農乳
業産業に関係



2.4億人が酪農乳業セクター
で直接または間接的に雇用



酪農家数は
1.33億戸



3700万戸の酪農場を女性が
経営し、8000万人の女性が酪
農場で雇用

現在の状況

- 世界の酪農乳業セクターに圧力がかかっている。
 - 国連食料システムサミット2021は**食料生産方法の転換**を求めており、多くの活動家グループが動物性食品からの大規模な食生活の移行を必要としている。
 - 国連気候変動サミットCOP26では、農業が議題となっており、その中でも特に畜産が注目されている。このサミットの4本柱の1つは、「**2050年までにネット・ゼロ・エミッションとカーボン・ニュートラルの目標を主流化する**」ことである。
- **気候変動対策は、酪農乳業セクターの最優先課題として認識されている。**

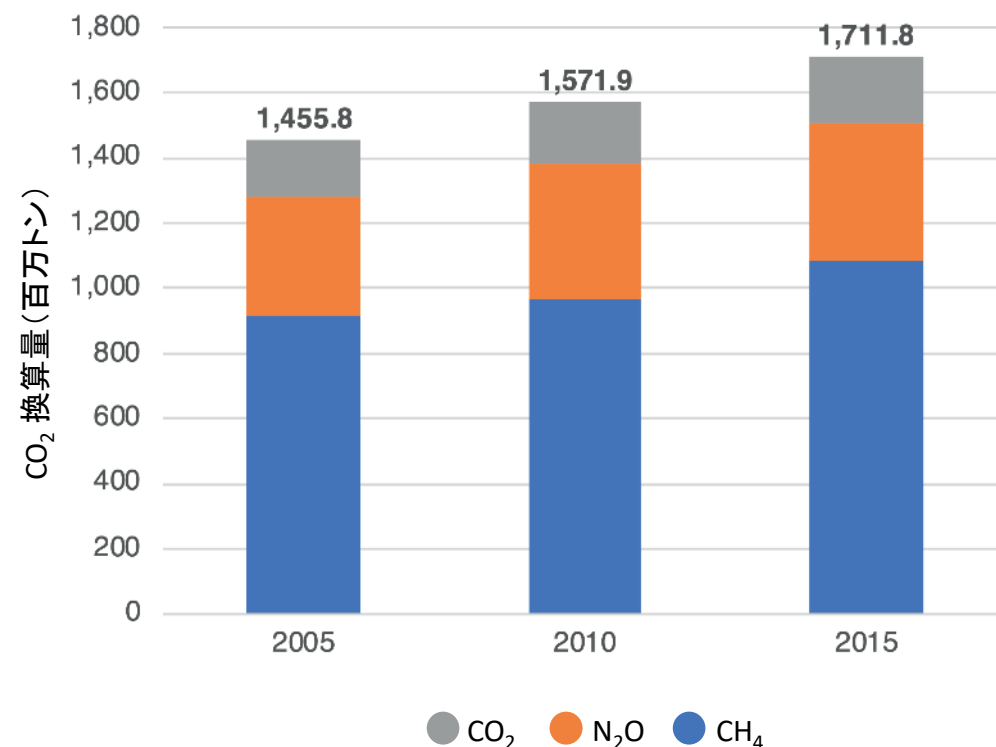
世界の酪農乳業セクターが社会的な運営ライセンスを維持するためには、地球への影響を軽減するために、気候変動対策に積極的に取り組む必要がある。

背景と動機

- 気候変動は現実であり、実在する脅威である
- パリ協定は、気温上昇を1.50°Cに抑制することが目的
- 各国の気候変動対策は、この公約を満たすことが現状できていない
- 全分野で野心を掲げるよう呼びかけ
- 酪農乳業は温室効果ガス(GHG)排出量削減のための画期的で野心的な取り組みに着手することで、この課題に立ち向かう。

- **酪農乳業ネット・ゼロへの道筋**

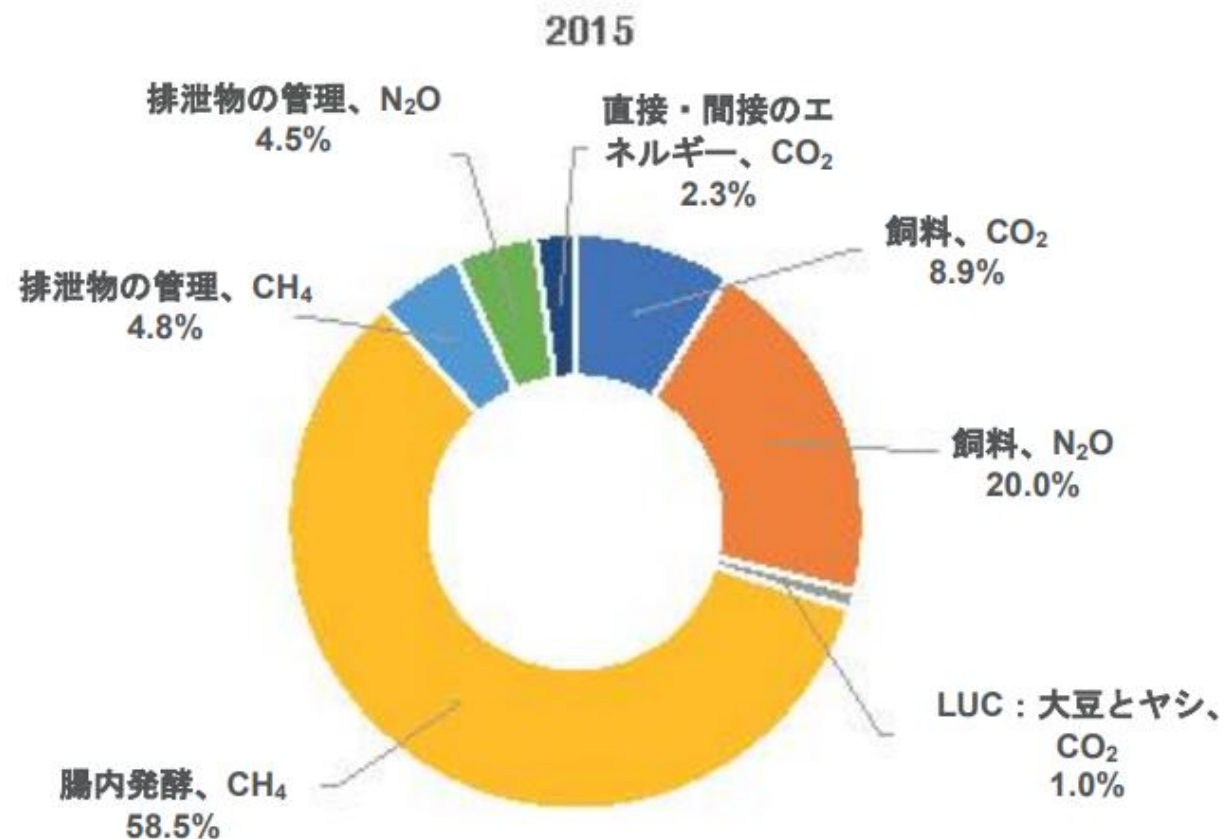
- 世界の食料と栄養の安全保障及び世界中の10億人の人々の暮らしにおける、本セクターの重要な役割を維持・強化しつつ、
- 社会的、栄養的、経済的な成果及び環境面の要請のバランスをとり、
- 2013年に横浜で立ち上げられたデリー・サステナビリティ・フレームワーク(DSF)の上に構築。



出典: FAO 2019年

背景と動機

- 農業食料システムは、GHGの発生源及び吸収源の両方としてユニーク
- 多様なシステムからのGHG排出の特異性を認識する必要がある：生物学的な窒素と炭素の循環、様々なガスの起源と挙動 – 二酸化炭素(CO_2)、一酸化二窒素(N_2O)、メタン(CH_4)。



出典: FAO 2019年

酪農乳業セクターの気候変動への野心の目的

- 持続可能性（**SDGs**）の文脈から、世界の酪農システムに**気候変動対策を体系的に導入し、あるいは強化する。**
 - 食料と栄養の安全保障
 - 暮らしと経済成長
 - 家畜の健康と福祉
 - 気候と天然資源の利用
- 全ての酪農システムのための**低炭素の道筋**の開発
- 様々なステークホルダーからのコミットメントを喚起
- コミットメントを行動に変えるための手法及びツールの開発

取り組みの範囲

- 全世界、当初は牛や水牛に焦点を当てる
- ライフサイクルアセスメント（LCA）：資源の利用から小売まで、直接及び間接の排出量を考慮する
- カーボン・キャプチャーとカーボン・オフセットも考慮する
- 全ての「酪農システム」を対象とする
- 酪農システムの多様性をシステム類型論で捉え、各国及び酪農のステークホルダーにとって実用的で適切なものにする

● ——— LCA ——— ●

資源利用

オンファーム

ポストファーム

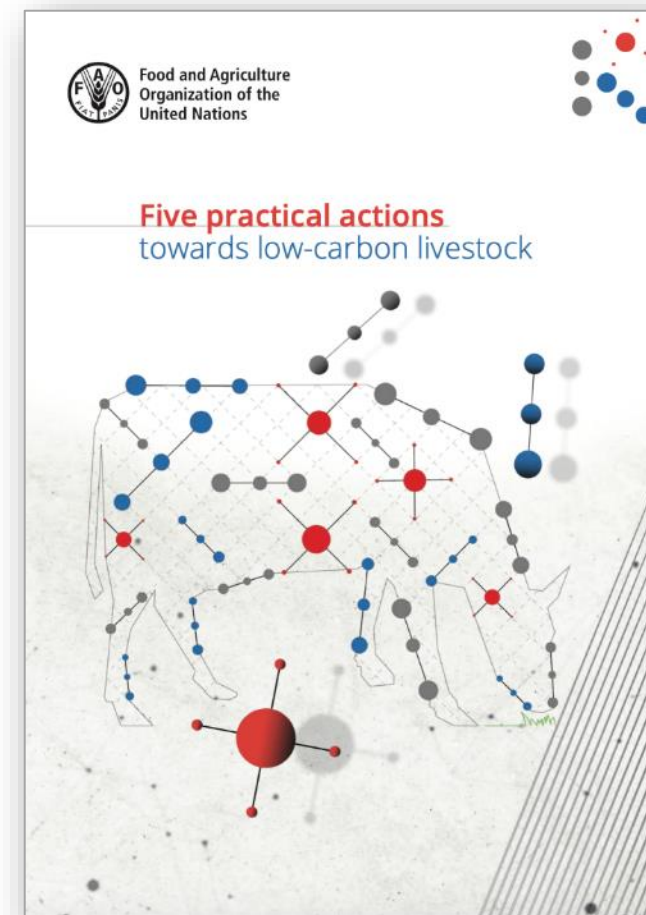
● ——— 直接 ——— ●



気候変動対策の選択肢

技術的、政策的、制度的な措置を含む、異なる地域やシステムのための低炭素開発の道筋の進展

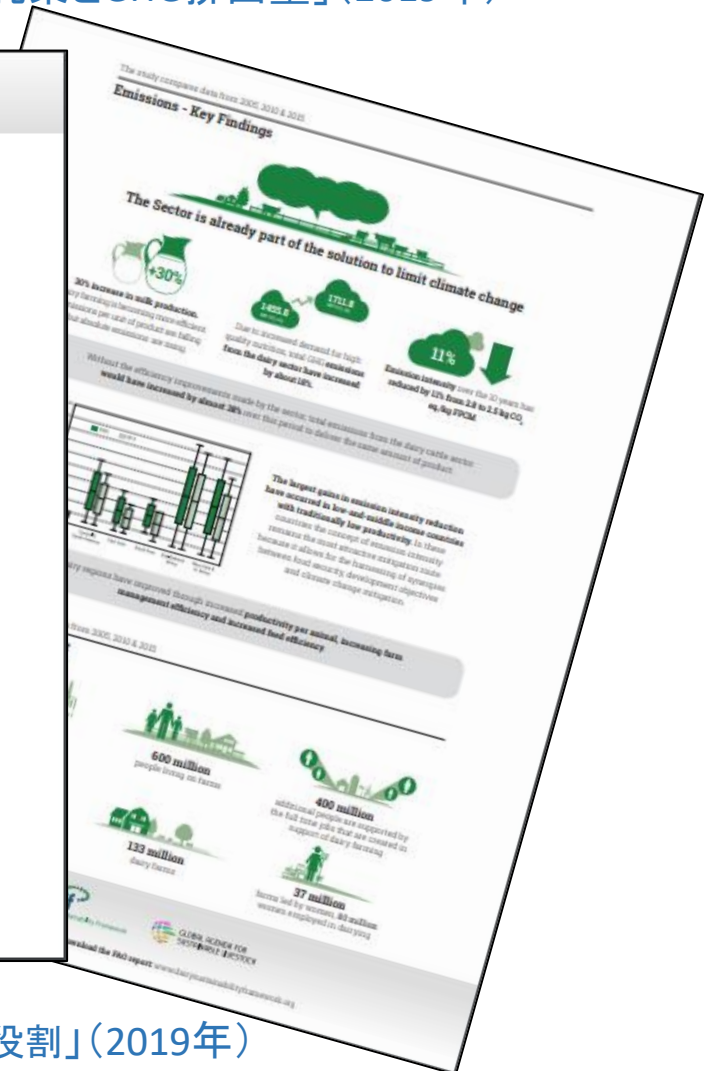
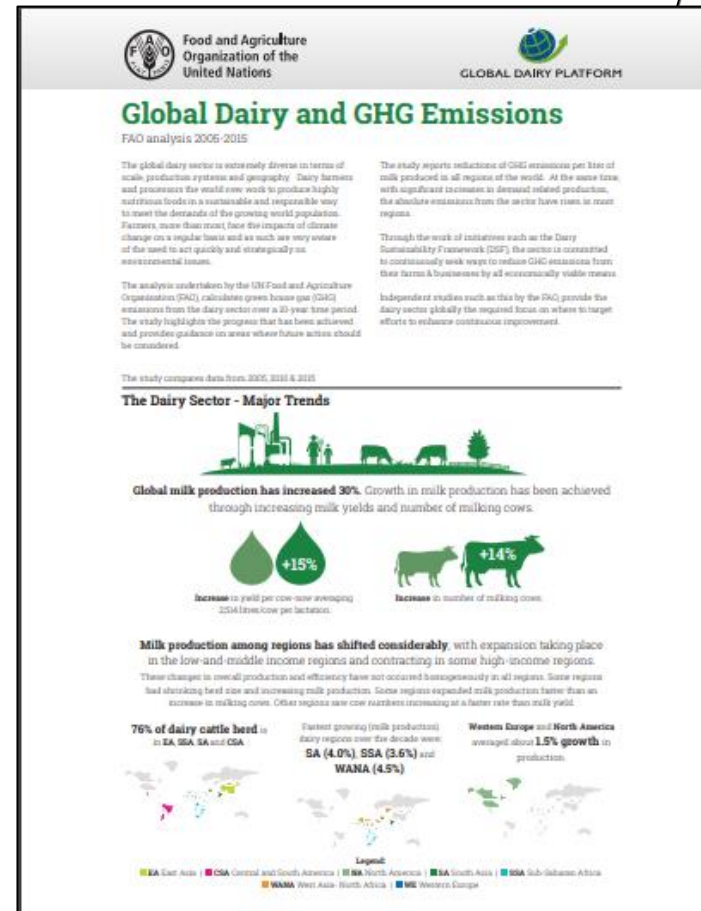
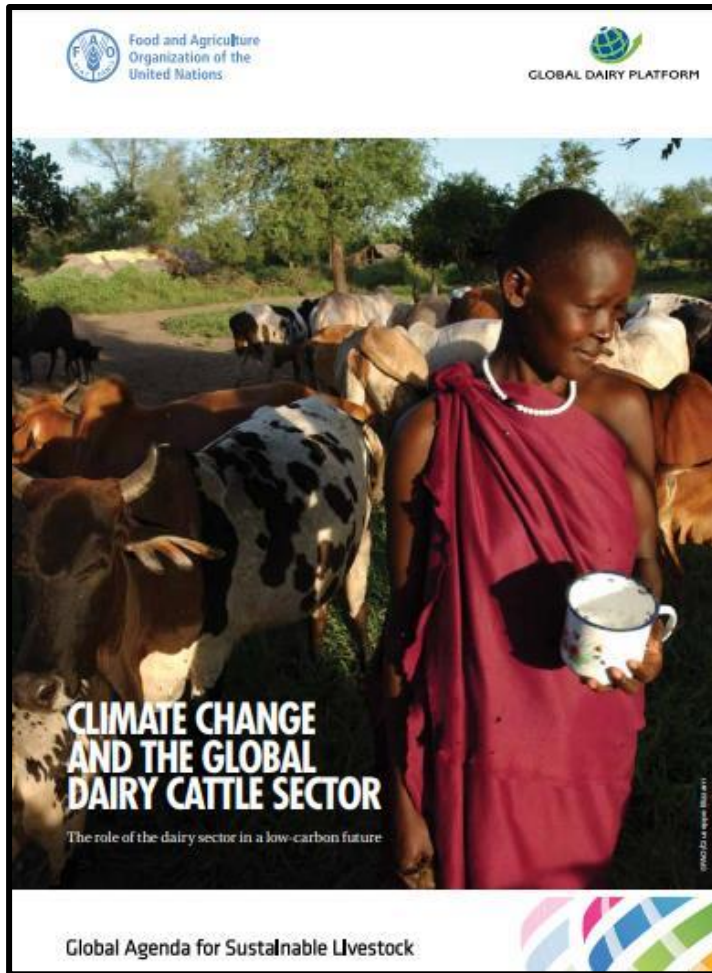
- 低減
 - 効率と生産性の向上（後悔しないために）
 - 対象をしばった介入及び将来の技術
 - 糞尿管理とリサイクル
- 回避
 - バイオマス（農産廃棄物など）のリサイクルと再利用
 - 低炭素の飼料調達及び製造加工オプション
 - 土地利用変化の回避
- 除去
 - 土壌の有機炭素
 - 植樹
- オフセット
 - 農場での再生可能エネルギー（太陽光、風力、バイオガス）



FAO報告書「低炭素畜産に向けた実践的な5つのアクション」(2019年)

世界の酪農乳業セクターのGHG排出量削減状況

FAO・GDPファクトシート「世界の酪農乳業とGHG排出量」(2019年)



FAO・GDP報告書「気候変動と世界の乳牛セクター・将来の低炭素社会における酪農乳業セクターの役割」(2019年)

排出量 - 主な調査結果



酪農乳業セクターは、気候変動を抑制するための解決を既に一部担っている。



生乳生産量は30%増加
酪農経営はより効果的になってきている。生産物の単位当たりの排出量は減少中だが、排出量絶対値は上昇中。

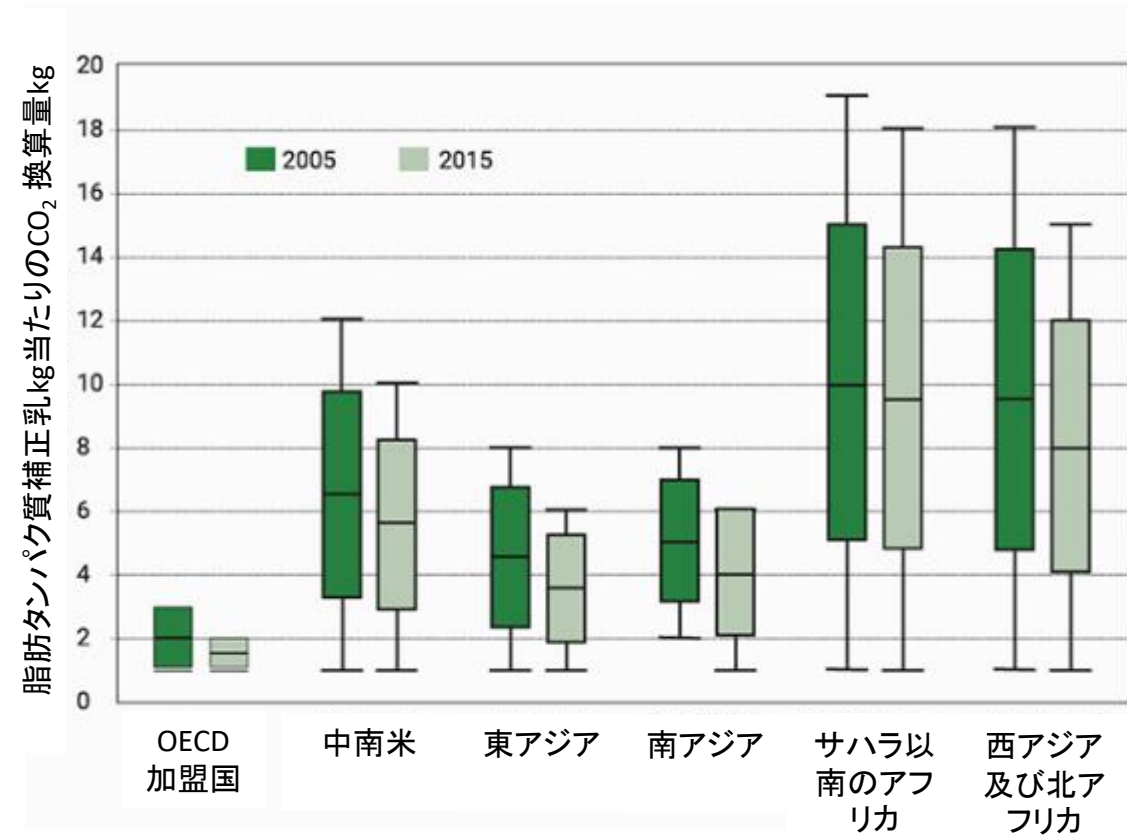


品質の高い栄養への需要が増加しているため、酪農乳業セクターからの総GHG排出量は18%増加した。



この10年間の排出量原単位は、脂肪タンパク質補正乳1キロ当たりのCO2換算値で2.8 kgから2.5 kgに減少した。

排出量 - 主な調査結果



排出原単位削減における最大の進歩は、伝統的に生産性の低い低中所得国で発生
これらの国々では排出源単位概念は最も興味を引く緩和経路であり続けている。その理由は、食料安全保障、開発の目標、及び気候変動緩和の間の相乗効果の利用を可能にするからである。

酪農乳業ネット・ゼロへの道筋 - 2021年のスケジュール

